

第3回伏虎義務教育学校設置に係る説明会 会議録 概要

- 1 日時 平成28年5月24日(火) 午後7時～午後8時20分
- 2 場所 和歌山市役所 14階 大会議室
- 3 出席者 北教育局長 中北教育総務部長 勝本学校教育部長 太地生涯学習部長
教育政策課 南課長 畠山副課長 川本適正規模配置推進班長
南企画員 森元技術主査 森本技術副主任
教育施設課 清水課長 岩崎副課長
スポーツ振興課 小川課長 細尾班長
学校教育課 神崎課長 東副課長 島本専門教育監
教育研究所 市川所長 岡本専門教育監
教職員課 梅野課長 十河副課長
保健給食管理課 加藤課長
文化振興課 前田文化財班長
- 参加者 93名(男性41名 女性52名)
本町地区26名(男性10名 女性16名)
雄湊地区36名(男性12名 女性24名)
城北地区29名(男性19名 女性10名)
その他 2名(男性0名 女性2名)
- 報道機関等 4名(NHK1名、テレビ和歌山2名、読売新聞1名)

4 内容

- (1) 開会
- (2) 自己紹介
- (3) 議事
 - ア 伏虎中学校区小中一貫校(義務教育学校)の設置について
 - イ 「校章」「校歌」の選定について
 - ウ 教育課程の重点目標について
 - エ 学校給食について
 - オ 通学路について
 - カ 複合学区について
 - キ 今後の予定について
 - ク その他

5 説明会主な内容

ア 伏虎中学校区小中一貫校(義務教育学校)の設置について

平成28年4月1日に、学校教育法が改正され、小中一貫教育を行う新しい学校の種類として、義務教育学校が創設されたことにより、伏虎中学校区小中一貫校は、義務教育学校として9年

制の一つの学校として設置することとなりました。それに伴い、学校名を「和歌山市立伏虎義務教育学校」とします。

これまで、伏虎中学校区小中一貫校は、小学校・中学校がそれぞれ独立した小中一貫型小学校・中学校として設置することとし、学校名の愛称として、「伏虎小中学校」とすることとしていましたが、新しい制度に移行することから、学校名を「伏虎義務教育学校」とします。そして、9年制の学校となることから、前期課程いわゆる小学校課程の修了時において、卒業式は実施しません。小学校課程の修了時において、修了式等の行事を実施するかについては、現在検討しています。

また、これまでの協議内容として、制服は現行のままとし、「小学生は私服」「中学生は制服」となります。また、通学区域は、これまでの伏虎中学校区（本町小学校、雄湊小学校、城北小学校）とし、通学は原則徒歩通学となります。

イ 「校章」「校歌」の選定について

和歌山市で初めてとなる伏虎義務教育学校は、小中一貫校として、小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒が、ひとつの同じ校舎・校庭で、9年間共に学びあう仲間として学校生活を送ります。その学校にふさわしく、ひとつの学校として、児童生徒が帰属意識や連帯感を持ち、市民の皆様からも親しまれる、新しい学校の象徴となる校章を作成することになりました。自分達で学校を築いていく、未来を担う若者の発想という視点から、伏虎中学校区の児童生徒及び和歌山市立和歌山高等学校デザイン表現科の生徒を対象に校章デザインの募集を行い、72点の応募作品がありました。その中から、このたび和歌山市立和歌山高等学校3年生矢渡晴香（やわたりはるか）さんの作品が伏虎義務教育学校の校章デザインとして選定されました。

校章デザインは、背景の三角形とさくらを中心にしたシンプルなデザインの中に、一つの小中一貫校として、新たな未来に向かっていくという、思いのこもった素晴らしい校章であると思います。この度の校章デザインの募集に対し、ご応募いただきました皆様、本当にありがとうございました。

次に、校歌作成についてですが、和歌山市にゆかりのある音楽家に依頼するというので、和歌山市文化表彰文化賞の受賞者でヴァイオリニストの現在東京藝術大学の学長をされている澤和樹さんに依頼しています。校歌につきましては、今年度中に完成する予定です。

ウ 教育課程の重点目標について

平成27年12月に和歌山市がめざす教育の指針として「教育振興基本計画」を作成しました。教育の各分野の現状と課題、今後の取り組みをまとめています。この教育振興基本計画の中には、ご覧のように「基本理念」と「めざす人間像」が定められています。和歌山市内の学校は、これらの理念、人間像の実現に向けて、学校教育に取り組んでいくことになります。

○伏虎義務教育学校の基本方針

1 義務教育9年間を見通した学習活動による学力・体力の向上

小学校が学級担任制で大切にしてきた「きめ細かな指導・グループ学習」の良さを、中学校の教科担任制の中に引き継いでいきます。専門性の高い教育を、小学校の段階から受けることができるように指導体制を整えます。

2 児童生徒の交流、体験活動による豊かな人間性・社会性の育成

人間関係の構築やコミュニケーション能力の向上をめざした磨きあう授業へ転換します。知識に留まらない体験活動を重視し、自然体験や地域学習を充実させます。

3 子どもの発達に寄り添った指導・支援の推進

子どもの個性、特性を大切にし、持てる力を最大限に発揮できるように支援します。特別支援教育を推進し、子どもの発達を踏まえた教育支援計画を作成します。

4 地域に根ざした教育活動、国際化に対応した教育活動の展開

ふるさと和歌山の歴史や文化のよさを知り、郷土を愛する心を育みます。国際人として活躍できるように、英語教育に力を入れます。

5 教職員の専門性をいかした指導体制

小中学校の先生が一つの学校にいるという利点をいかし、それぞれの教員の専門性が最大限発揮できるように指導スタイルを工夫します。

○めざす子ども像

「豊かな人間性・社会性」、「確かな学力・創造力」、「健康な体・自立心」を備えた子ども。

○子ども達の学力の面につけさせたい力

1 主体的、創造的に学びを深める力

与えられた学習を済ませていくだけではなく、自ら課題を見つけ、解決に向けて取り組む力を持った子どもを育成します。

2 仲間と学ぶことの喜びを感じ、交流し、高めあう力

地域の先達に学び、友だちと意見交換を行い、より良い答えを導くことができる、高いコミュニケーション力を持った子どもを育成します。

3 自らの考えや意見をまとめ、伝える力

自分の意見や考え、学びの成果をまとめ、発表会や新聞等で伝えることができる力を育成します。

○授業形態について

1 協力授業

小学部と中学部の教員がチームティーチングで指導することにより、互いの専門性を生かした授業を行い、個別の指導や支援の充実を目指します。基礎・基本の定着や学習意欲の向上を図ります。

2 交流授業

異学年の児童と生徒が、同じ空間で学習・交流しながら、互いの立場や考えを認め合い、他者理解を深めることにより良い対人関係の育成を目指します。上級生が規範意識や下級生への思いやり意識を高める場、下級生が良き学びのモデルを獲得する場になります。

3 一部教科担任制

小学部から中学部への円滑な接続を支えるために、5、6年生の一部で教科担任制を導入します。中学部教員の専門性を生かした授業を受けることで、児童の学習意欲の向上を図るとともに、中学部の学習形態への移行を滑らかに行います。

○教育課程の柱「わかやま創造科」と「英語教育」と「理数教育」について

1 わかやま創造科

総合的な学習の時間をベースにした、一貫校の特徴的な教科です。一貫校においては、ふるさと「わかやま」をテーマにした教材を扱いながら、郷土愛を育むとともに、9年間

を通して、自ら学び、考え、判断し、問題解決に取り組むことができる力を育成していきます。9年間の子どもの育ちを見据え、学校全体で計画することで、自分の夢の実現に向けてしっかり学ぶ力を備えた子どもたちを育てることができると考えています。

2 英語教育

次の学習指導要領において大きく改訂され、平成32年度の完全実施の段階で、小学校においては、これまでの高学年だけでなく中学年においても外国語活動が導入される予定です。また、高学年の外国語活動は英語として教科化されます。一貫校においても、先進校の先行実施に合わせて、モジュール学習これは15分程度の短時間の学習時間で、コミュニケーション活動をつなぐ単元を組んだり、英語表現の習得のための反復学習をおこなったりする学習ですが、これを定期的に取り入れるなどの取組を始める予定です。

3 理数教育

体験活動、実験観察、数学的活動を充実し、比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する活動を重視し、論理的思考力を高める指導をしていきます。

エ 学校給食について

- 1 給食形態は、伏虎義務教育学校の中学校給食については、自校給食で全員喫食とします。
- 2 小中一貫での同一給食にするメリットは、施設一体型の校舎で一貫教育を実施し、学校生活全般を児童生徒、教職員が共に関わり学びあいます。児童と生徒の交流を深めるため、新設するランチルーム等で交流給食を行ないます。自校で調理された給食を喫食します。思い入れの強い小学校課程での給食を中学校課程でも配缶方式で同じように提供します。
- 3 給食数につきましては、給食室設計での想定人数で伏虎義務教育学校に必要な食数は840食を予定しています。内訳につきましては、小学校課程で540食、中学校課程で240食、教職員等で60食です。
- 4 小学生と中学生の栄養摂取の差異につきましては、資料の児童又は生徒一人一回当たりの学校給食摂取基準に表示していますが、一例として小学生の中学年のエネルギー摂取量と比較すると中学生では約1.28倍、ビタミンAは約1.76倍の摂取が必要ですが、食塩相当量は1.2倍までに抑える必要があります。このように目標栄養量のばらつきがあり、単純に小学校献立の量を増やすだけではなく、量や品数の調整を行い、毎日の給食に合わせた中学生用の献立を作ることが必要となります。

オ 通学路について

本町、城北、雄湊小学校の各校長先生と協議させていただき、現状を確認しながら、通学路設定の基準に基づき、原則、歩道や信号機、横断歩道があるところで作成しています。細かい登校の仕方等については、学校や保護者の方々の意見を聞きながら、また和歌山市通学路安全推進会議で協議しながら検討を進めます。

カ 複合学区について

伏虎義務教育学校と砂山小学校の複合学区を設定しました。以前、雄湊小学校区で行った開校に向けての住民説明会で、雄湊小学校区の一部を砂山小学校にも通学が認められる複合学区

として設定してほしいというご要望がありました。その後、現地調査を行い、通学距離等を基に原案を作成しました。その後、27年7月に雄湊小学校にて住民説明会を開催し、多くのご意見を頂き、8月には和歌山市通学区域協議会を開催し委員の方に審議いただき、9月の教育委員会にてこの地域を複合学区として設定することになりました。

キ 今後の予定について

現在建設工事は、予定通り順調に進んでいます。10月末を目途に校舎建屋の躯体工事が終わり、その後、校舎内の内装及び仕上げ工事をとりおこないます。敷地北側の新設する校舎は、2月末完成の予定となります。また、敷地南側グラウンドの防球ネット等の外構工事は、7月から順次進みます。これまでの敷地北側の工事エリアに加え、敷地南側でも工事が始まります。学校周辺の皆様方には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、何とぞよろしくお願い致します。

伏虎義務教育学校は平成29年4月開校いたしますが、その後、現在の城北小学校校舎を解体撤去し、10月末に工事の竣工を迎えます。これは、当初の工事工程計画と同じになります。現在の工事の様子は、別添の伏虎義務教育学校建設工事の進捗状況の写真となっており、校舎の輪郭や内部工事の様子がわかります。

次に、平成28年度内の説明会の開催予定です。資料7ページにありますように、地域向け、保護者向けに分けて開催する予定としています。詳細な日程及び内容については、改めてお知らせします。

6 質疑応答

ご質問、ご意見及び教育委員会の考え方等については、趣旨を損なわないように要約しています。

◆複合学区について、教えてください。〔雄湊地区〕

⇒複合学区の地域に住んでいるかたは、学区の学校と選択可能な学校のうちいずれかの学校を選択できます。ただし、選択した小学校に入学すると、その小学校区の中学校へ入学するということになり、途中で学校を変更することはできません。

また、今回特例として、伏虎義務教育学校が開校する4月時点で砂山小学校との複合区地域にお住まいのかたは、学年の途中であっても選ぶことができます。

◆開校時に1年生は何クラスになりますか。〔雄湊地区〕

⇒1年生のクラス数ですが、現在70名から80名近くと予想し、3クラスになる予定です。

◆配缶給食について、教えてください。〔雄湊地区〕

⇒現在小学校で実施している給食と同じです。食缶を教室まで運んで、取り分ける方法です。弁当方式ではないということです。

◆素晴らしい理念を持った学校だと感じました。それを実現するために、現場の先生の力が重要だと思うので、志のある先生を集めてほしい。〔雄湊地区〕

⇒現在、各学校の特色ある取組に対して、意欲を持ったものを公募し、応募してきたものの中

から3小学校及び中学校に配置しています。伏虎義務教育学校開校にむけ、来年度につきましても公募し、先生方を募集していきたいと考えています。

◆違う小学校から転校してきた場合、学力が違いすぎてついていけるか心配です。〔本町地区〕

⇒学校によりそれぞれ進む進度が違います。受け入れる学校で、その子どもに応じた個別の指導をしながら、その学校の学習状況に追いつくよう進度を合わせます。どの学校でもしなければならぬことですので、しっかりと教員が力を入れて取り組んでまいります。

◆ティームティーチングについて、教えてください。〔雄湊地区〕

⇒1人の教員が授業する形態に対し、2人の教員がチームとなって連携・協力し、子どもの学力を高めていくという指導方法です。

◆複合学区の範囲を変更してほしい。〔雄湊地区〕

⇒複合学区の設定について、伏虎義務教育学校までの通学距離や和歌山市内の他の小学校の通学距離なども勘案しながら設定しました。今回設定した複合学区を変更することは考えていません。

◆教育理念の中にたくましい元気な子どもとあります。新しい学校の運動場に、たくさん子どもたちが集まりますが、体育の授業が安全に充実してできますか。〔雄湊地区〕

⇒中学校で学級数が多い学校では1学年に7クラス8クラスというように沢山のクラスがある学校もあります。伏虎義務教育学校の1学年のクラス数はそう多くない中、体育館は新校舎の中に大きな体育館と現在の城北小学校の体育館と2箇所あります。また、サブグラウンドとしてクラブの練習も雄湊小学校のグラウンドの利用を検討していますので、施設面でしっかりと児童生徒が体力向上に向けてできる環境を整えていきたいと考えています。

◆支援学級は存続されますか。〔雄湊地区〕

⇒支援学級はそのまま継続されます。

◆避難所として雄湊小学校は高台にあります。避難訓練では高台にのぼることになっています。

避難所として雄湊小学校は残りますか。〔雄湊地区〕

⇒雄湊小学校につきましては、建物、体育館自体は残りますので、今後引き続き避難所として機能を残せるように進めます。

◆学童保育について、教えてください。〔本町地区〕

⇒新しい義務教育学校では6年生までを対象に2クラス予定しています。指導員は4人か5人の体制になると考えています。時間については平日午後6時30分までとなっています。

◆小学校の修了式をしてほしい。もし受験して他の中学へ進学することになった場合、卒業式がなく卒業証書もなかったら、子どもにとって良くないと思います。〔雄湊地区〕

⇒私立や県立や国立の中学校に進学する子どもがいると思います。その子どもについては、義

義務教育学校前期課程を修了したということで、修了書を出すこととなります。ただ卒業式という形での式はありませんが、修了式という形の式を行うか今検討をしているところです。

◆運動会はどのように行いますか。〔雄湊地区〕

⇒小中一貫教育の長所をいかせると考えていますので、合同で運動会をする方向で考えています。

◆小学生（前期課程）と中学生（後期課程）の体操服はどのようにになりますか。〔雄湊地区〕

⇒現在検討しています。

◆4・3・2の教育になりますが、ランドセルは6年生まで使いますか。〔雄湊地区〕

⇒4・3・2という形態になりますが、小学校課程については6年生までとなるため、従来のかたちも含め検討していくことになります。

◆通学時のときに、ぼうしの着用などありますか。〔雄湊地区〕

⇒現在検討しています。

◆部活動について、今伏虎中学校の人数の少ない部活が他の学校と合同でされているということを知りました。今後も他の学校と合同でしますか。〔他地区〕

⇒全国的に中学校の人数が減っています。特に部活動運営で困難なのが、サッカーの11人、野球の9人、その人数に満たないために大会に出られないことがあります。その子どもたちが大会で活躍する場を保障する必要があるということで、中体連では2校が合同でチームを作って勝ち進めば、市から県、県から近畿と上がっていけるという制度も今認められつつあります。それで今後、伏虎義務教育学校の7年生8年生9年生の部活動についても、そのように生徒の活躍できない状況の人数になった場合は、近隣の中学校と合同ですということも視野に入れていかなければならないと考えています。一番いいのは人数が増えて、自分たちでチームを作って、がんばっていただくのが一番理想だと考えています。

◆説明会に参加できない場合があるので、配布資料や質疑内容を情報発信してほしい。〔本町地区〕

⇒これまでも説明会の概要について、和歌山市のホームページの教育委員会内に掲載していますので、今回についても掲載します。

◆今後の説明会のスケジュールについて、在校生保護者の説明会が昼の時間帯の予定なので、日中仕事しているものからするとその時間帯では説明会に参加できない。〔本町地区〕

⇒5月24日（火）の19時からの説明会が日中仕事をされている方向けと考え、在校生保護者向けとして、各学校の参観日に合わせて、昼の時間帯の設定をしています。次回もその予定です。なお、説明は同一内容です。